

宝塚の消防の歴史

宝塚の常備消防

県立宝塚西高校 平成30年度2年2組

昭和23年：伊丹市、小浜村、良元村の1市2村で「伊丹消防組合消防署」が発足

現在の歌劇場前交差点近くに宝塚消防出張所開設

昭和26年：小浜村が宝塚町と改称

昭和27年：「伊丹消防組合」が解散、宝塚町、良元村の2町村で「宝塚消防事務組合消防本部」結成

昭和29年：宝塚町と良元村が合併し宝塚市が発足

「宝塚消防事務組合」は解散、「宝塚市消防本部」が発足、消防本部と消防署は栄町におかれる

昭和38年：消防本部と消防署が小浜（現在の宝塚郵便局の向かい）に移転

昭和39年：雲雀丘出張所開設

昭和40年代：南部出張所、長尾出張所、栄町出張所、南口出張所、消防本部西谷分室が開設

昭和44年：長尾出張所が長尾分署となる

昭和50年：米谷出張所開設

昭和53年：長尾分署が宝塚東消防署に昇格し、1本部2消防署体制となる

昭和57年：中山台出張所開設、西谷分室が西谷分遣所となる

昭和60年：消防本部、西消防署合同庁舎が現在の場所に移転

昭和63年：東消防署移転

平成4年：閉鎖された南口出張所に代わり宝松苑出張所開設

（宝塚西高校の防災訓練にはここから来ていただいています）

平成7年：栄町出張所開設

☆現在は1本部、2消防署、7出張所体制

☆宝塚市の消防車両は、車両番号とナンバープレートが同じになっています。

宝塚の消防団

消防団とは

- ・消防組織法に基づき市町村に設置されている消防組織、消防署とともに火災や災害への対応を行う。
- ・消防署との違いは、消防署は職員が常に消防業務についているのに対し、消防団員は別に仕事を持ち、火災や大規模災害発生時に自宅や職場から現場へ駆けつけ、消火活動・救助活動を行う。
- ・消防団員の身分は非常勤特別職の地方公務員。

昭和29年：宝塚市の発足に伴い、宝塚町消防団と良元村消防団が合併、宝塚市消防団が13分団で発足

昭和30年：宝塚市・長尾村・西谷村の合併で、長尾村消防団、西谷村消防団が加わり29分団体制となる

昭和40年代以降、常備消防の拡充に伴い市内の消防団は減少していく

昭和43年：鹿塩分団、西藏人分団、東蔵人分団、小浜分団が解散

昭和44年：丸橋分団、山本分団、中筋分団解散

昭和45年：川面分団、栄町分団、伊子志分団解散

昭和46年：上安倉分団、下安倉分団解散

昭和47年：平井分団、米谷分団解散

昭和50年：小林分団、米谷東分団、中山寺分団が解散

昭和時代に宝塚市南部の消防団はすべて解散し、西谷地区のみで11分団体制となる

平成25年：宝塚市消防団で初の女性消防団員が入団

平成30年：3月31日、武田尾分団が地域の人口減少により新しい団員確保が困難となり解散

☆現在の宝塚市消防分団は、上佐曽利分団、下佐曽利分団、長谷分団、東部分団、中部分団、西部分団、波豆分団、境野分団、玉瀬分団、切畑分団の10分団体制である



〈高規格救急車〉

この救急車は、救急救命士による高度な処置が行える資機材を積載しています。

傷病者収容部分及び収納庫を拡大し、救急患者に走行時の振動を与えないよう、緩衝装置のついた防振架台等を装備しています。